

# — つ な が る — 2021年9月

(64号)

つつじが丘シニアクラブ

パラリンピック開会式の翌日、8月25日、区老連の福祉研修会に参加しました。咲洲にあるインテックス大阪の医療、介護展示会場の見学でした。西日本最大級の総合展です。

リフト、昇降機、エレベーター、入浴関係、車椅子、ベッド、トイレ、そして介護用品（オムツ、衣類、靴など）などあらゆるものが展示されていて、何か所かではそれぞれの分野でのワークショップが実施されていました。2時間の見学は貴重なものでした。

介護職員らしき若い人たちやメーカーらしき人たちの真剣な見学の姿や、各ブースの専門家たちの知識の深さ、熱心な質問と応答の行き交い、静かさの中の熱量、どれもこれもホンモノです。

この直前に、実は車窓見学でした。お城のように派手なデザインの舞洲のゴミ処理場や咲洲の大阪庁舎、そして夢洲の大阪万博、IR（統合型リゾート、カジノ）予定地を虚しい気持ちで眺めました。いわゆるハコモノにばく大なお金をかけたあの時代って一体何だったのでしょうか。無駄ではなかったのか。あれだけの大きな財源が今大阪にあれば、このコロナの関連で有効な使い方ができたのでは？あるいは今後まだ大阪にカジノを誘致する必要があるのだろうか・・・という胸のざわつきの後のインテックス大阪の見学は気持ちが清々しかったです。

医療機器の日進月歩の進歩を目の当たりにした帰途のバスの中で、感動とは別なところで「出来れば今見学した機械や器具を使用する一歩手前で、皆、踏ん張っていこう」と、つつじが丘シニアクラブ会員さんに発信しなければと思いました。

理念だけ立派で、実際には何をどう行動してよいやら迷走中です。